

モデル校用

「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

(モデル校名 山口県 菊川町立岡枝小学校)

○ 学校の概要 (平成15年4月現在)

菊川町立岡枝小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	21	27	26	24	28	29	3	158	

1 平成15年度当初の「総合的な学習の時間」の課題

- ① 町教育研究推進構想および発達段階に応じた具体目標の設定
- ② 小中高学習活動系統表の作成および活動目標・内容の見直し
- ③ 地域の学習素材の開発と人材リストの整備・充実と共有化
- ④ 異校種の児童生徒の交流活動の場の設定
- ⑤ 異校種の教職員の合同研修会・情報交換会の開催
- ⑥ 教職員の異校種間交流・交換授業の実施
- ⑦ 各校における授業公開と参加

2 モデル地域の研究主題に対する本校の対応・目標設定

- ① 学習メニューの作成と体験的な活動の充実
- ② 年間指導計画および中高への発展的学習内容の見直しと系統化
- ③ 幼保小連携教育の実践を生かした異年齢集団による活動の充実
- ④ ポートフォリオによる評価の累積化、中学校との連携のあり方

3 本年度の本校の取組内容及び成果と課題

- ① 「つきたい力」の明確化・共有化
- ② 単元設定の見直しおよび年間指導計画の改善 (共通テーマ「菊川に学ぶ」にふさわしい単元の洗い出しと単元プログラムの整備と作成)
- ③ 異校種教員による共同研究 (他校授業研究会への参加)
- ④ 異校種間直接交流の実施 (高校生との高齢者疑似体験や中学校総合発表会への参加)
- ⑤ ポートフォリオの活用

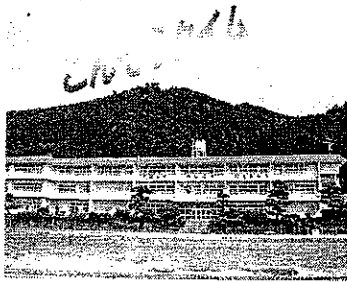
4 平成16年度の取組予定

- ① 共通テーマ「菊川に学ぶ」のもと、系統的で魅力のある単元開発とより実効的な単元プログラムの作成と研究の実践記録と評価
- ② 小中高の有機的な連携 (具体的な計画と情報交換、打ち合わせ時間の確保)
- ③ 授業公開や合同研修会への参加

平成16年度

総合的な学習の時間「こんぞうタイム」全体計画

菊川町立岡枝小学校

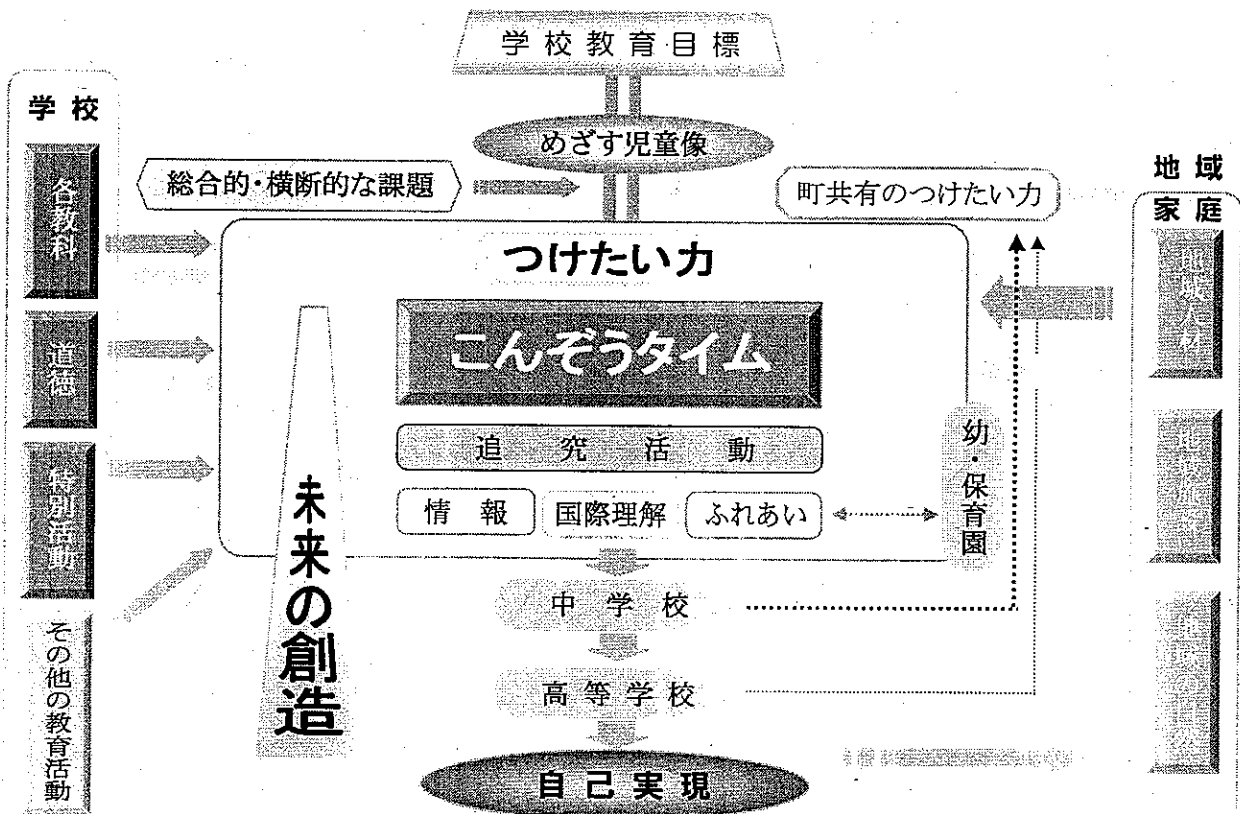


「こんぞう」は本校の北に隣接する山で、校歌にも歌われるほど、古くから子どもたちになじみ愛されてきた山である。かつて山では金が採れ、正式には「金蔵(こんぞう)」と命名されている。総合的な学習の時間を通して、子どもたちに金のごとく輝いてほしいという願いとともに、様々な活動の場ともなっているこの山を、自分たちのふるさとの山として永く愛着をもち続けてくれることを望んでいる。

1 「こんぞうタイム」の概要(テーマ・目標・内容)

こんぞうタイム							
学年	追究活動		情報 ベース作り	国際理解 コミュニケーション	ふれあい(縦割班活動)		
	学年テーマ	目 標			活 動	共通テーマ	
1年			国語 生活科		異文化 交流	縦 割 班 活 動	<ul style="list-style-type: none"> 自分を見つめる 自然とのふれあい 人とふれあう
2年							
3年	地域	いろいろな視点から菊川を見つめる体験を通して、課題を見つけ、進んで取り組むことができる。	基本 基本	英 会 話	異文化 交流	縦 割 班 活 動	
4年	人(福祉)	様々な視点から人の生活を見つめる体験を通して、課題を見つけ、進んで取り組むことができる。					
5年	人・自然	身の回りの人々や環境にかかわる体験を通して、課題を見つけ、進んで取り組むことができる。	応用	英 会 話	異文化 交流	縦 割 班 活 動	
6年	自分	様々な視点で自分を見つめる体験を通し、課題を見つけ、進んで自己の生き方を考えることができる。	発信				

2 全体構想

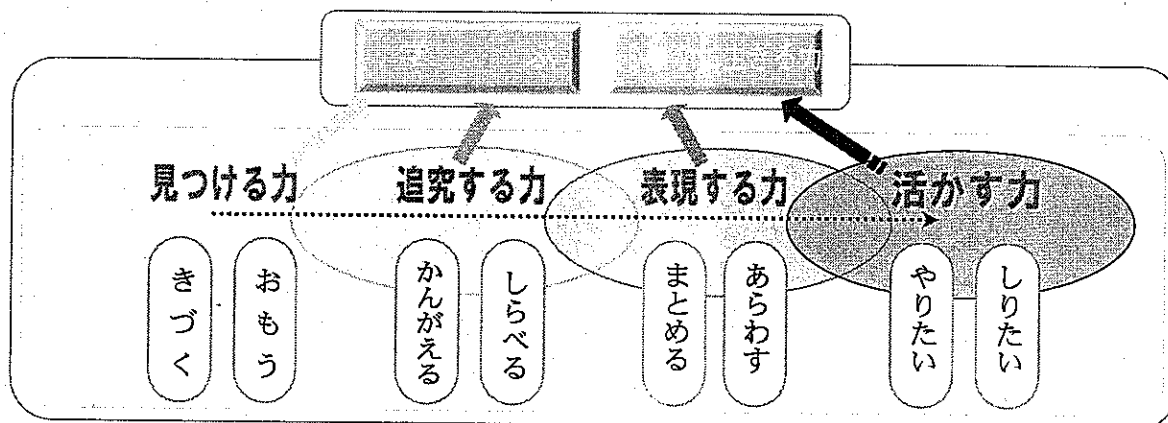


3 「つきたい力」の系統性・関連

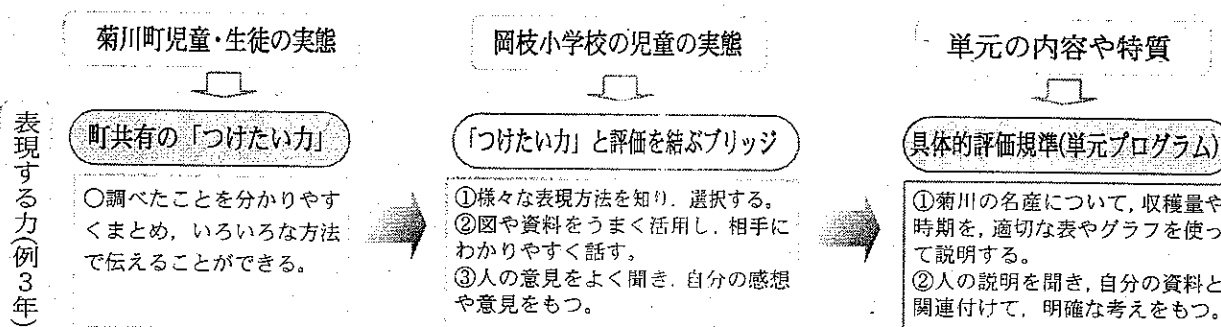
(1) 岡枝小の児童に「つきたい力」(町共有の「つきたい力」と「評価」を結ぶブリッジ)

	A 見つける力	B 追究する力	C 表現する力	D 活かす力
低学年	① 身の回りの人・自然に興味・関心をもつ。 ② やってみたいことを見つめる。	① 知的な気づきを見つける。 ② 自分のめあてをもって活動する。 ③ 根気よく活動する。 ④ 安全に気をつけ活動する。	① 表現の方法を知る。 ② みんなの前で自分の思いを話す。 ③ 人の意見をよく聞く。	① やってみたいという意欲をもつ。
中学年	① 身の回りの人・自然・地域に興味や関心をもつ。 ② 対象をより深く見つめ、課題を見つける。	① 調べながら疑問をもつ。 ② 調べる方法を知る。 ③ 根気よく意欲的に課題に向かって努力する。 ④ 安全に気をつけ活動する。 ⑤ パソコンやデジカメなど情報機器の基本的な操作方法を知る。 ⑥ 資料を活用する。 ⑦ 相手の気持ちを考えて行動する。	① 様々な表現方法を知り、選択する。 ② 相手にわかりやすく話す。(図や資料をうまく利用する) ③ 人の意見をよく聞き、自分の感想や意見をもつ。	① 学習したことを自分の生活に生かしてみようとする。 ② 次の疑問をもつ。
高学年	① 身の回りの人・自然・社会に興味や関心をもつ。 ② 活動の流れや時間の見直しをもって学習課題を決める。	① 調べる過程で出てきた新たな疑問をより深く追究する。 ② 調べる方法を選択する。 ③ 根気よく主体的に課題に向かって活動する。 ④ 安全に気を配り、計画を立てて活動する。 ⑤ パソコンやデジカメなど目的に応じた情報機器を活用する。 ⑥ 資料を選択し、簡潔にまとめ考察する。 ⑦ 相手の立場に立って行動する。 ⑧ それぞれの能力にあった役割を分担する。	① 表現方法を選択し、構成する。 ② 根拠を明らかにし、相手にわかりやすく話す。 ③ 人の意見を尊重し、自分の考えに生かそうとする。	① 学習したことを自分の生活に生かしてみようとする。 ② 身近な事象から関連することを見つけ出す。

(2) 「つきたい力」の関連



(3) 「つきたい力」具体化の手順

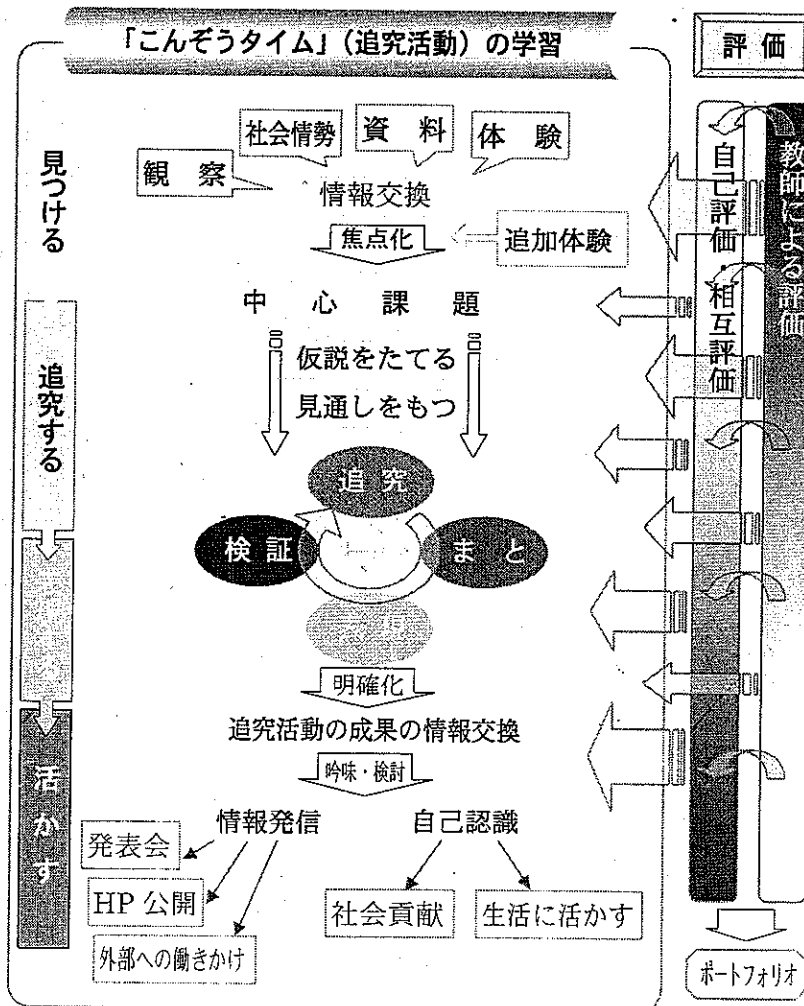


4 単元一覧表 (配列・実施時期・種別・予定時数)

学年 テーマ	内容(単元名)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	種別	予定 時数
3年 地域	いもきょうだいの長男・長女として	●—————→												☆●	43
	決定菊川名物チャンピオン	●—————→												★☆	45
	英会話を楽しもうⅠ	●—————→												□■	17
4年 人 (福祉)	ふれあいの輪を広げようⅠ (高齢者とのふれあい・田部高生との交流)	●—————→												○★●	87
	英会話を楽しもうⅡ	●—————→												□■	18
5年 人 自然	発見！水の不思議	●—————→												★	26
	ふれあいの輪を広げようⅡ	●—————→												●	49
	英会話を楽しもうⅢ	●—————→												□■	35
6年 自分	岡枝歴史探検隊	●—————→												★	10
	自分を見つめる	●—————→ <small>縦割班の班長として</small>												●	65
	英会話を楽しもうⅣ	●—————→ <small>外国語大作戦 in 長崎</small> ●—————→ <small>卒業によせて</small>												□■	35

★菊川に学ぶ ☆地域の教育力 ●異校種連携 ○福祉 □英会話 ■異文化交流

5 学習過程と評価の基本構想



(1) 指導と評価の一体化

追究活動の過程はおおよそ左図のような流れとなる。活動の前半(追究活動が軌道に乗るまでは、教師の指導(支援)が大きなウェイトを占める。教師は各ステップごとに適切な評価をし、活動をつなげていく。活動が進むにつれ徐々に自己評価へと移行していき、教師は自己評価をサポートしていくことが望ましい。

(2) 評価のとらえ方

教師による評価

- ・口頭評価(各ステップ)
- ・評価的発問(活動の分岐点)
振り返りや先の見通しを支援する。
- ・記述的評価(對自己評価)
児童の自己評価に対して分析的に書ききよって評価する。

児童による評価(自己評価・相互評価)

自己評価は、記述的評価が中心となる。自己評価カードを使用し、自己の活動を振り返る。感想から出発し、教師の評価や子どもたち同士の相互評価により次第に分析的な評価へ向かわせたい。

6 年間指導計画について

上記の内容をふまえて、「こんぞうタイム」の追究活動について年間指導計画を作成する。「総合的な学習の時間」の性質上、児童の実態によって大きく展開が変わることも予想されるので、参考となりうる事項もできるだけ書き込むよう配慮していく。

単元一覧表に従う

第 学年 「 (総時数 時間)

月	小 単 元 (時数)	関 連	展 開 計 画 (時数)
4	「.....」(13)	国語「.....」	1する。(1) 2を行う。(3) ...
5		道徳「.....」	

指導月を記入。月の境は無し。

小単元は「 」書き。置き換え可能なものがあれば、書き加える。

クロスカリキュラムの編成を見越して、教科、道徳、特別活動の内容を付記する。

番号を打ち、予想される活動を時系列にそって書き出す。

※ 様式は、A4 タテ

7 単元プログラムについて

年間指導計画をもとに、より具体的なプログラムへと落とししていく。

過程	主 な 学 習 活 動 (時数)	つ け た い 力 の 評 価 規 準 (ブリッジの項目に対応)	支 援	関 連
見つける	○..... (1)	○.....(A-①)	○.....	国語「.....」 ○.....する力。
追究する	4つの段階的過程にそって予想される活動を書き出す。アウトラインは年間指導計画の展開計画に対応し、必要に応じて細分化していく。予想される反応等具体項目も書き込む。(絵や写真も効果的)	「岡枝小の児童につけたい力」に従い、単元の内容に合わせてより具体的な「力」を明記する。(A-①)のように基になる「力」を明確にしておく。	学習形態、準備、配慮事項等を記述する。支援の方法や教師の意図する事柄も明記しておく。	原則的には、年間指導計画の「関連」に従うが、記述については内容ではなく能力として明記する。
表現する				
活かす				

※ 様式は、A4 ヨコ